

# 挑む!

## 病児保育に取り組む

### 高 亜希さん(38)

# 子の看病から新たな理想追う

子どもの急な発熱時に保育や子育ての経験豊富なスタッフが自宅に向いて看病してくれる病児保育は、働く親たちの大きな味方だ。関西の病児保育の草分け、NPO法人「ノーベル」を2009年に立ち上げた。

関西学院大を卒業後、旅行会社などに勤務し、結婚や出産を機に退職する女性たちを間近に見て、育児と仕事の両立の難しさを実感した。大阪市内2区で始めたサービスは、大阪・吹田市全域を含む13市域に広が



1979年、大阪・生野生まれ。困難な状況に置かれた子どもの支援を掲げた一般社団法人「コレクティブフォーチルドレン」共同代表も務める。

った。登録会員は約千人に達し、現在は新規入会を制限するほどだ。出産しても当たり前前に働き続けられる社会に寄与してきた自負はあるが、葛藤も感じてきた。「社会的な課題をただお金で解決する世の中でのいいのか」。困窮するひとり親家庭の実情に触れ、格差の拡大も実感してきた。

「病児保育が必要ない社会の実現」を投げかけていきたいと語る。「親が病気の子どもに寄り添いたい時にはそうできるように働き方自体も変わってほしいし、休めない時は地域の仲間であげあえればいい」。つながりの創出をめざし、事業の新たな展開を図る。

長男を出産し、今春に本格復帰したばかり。「育児で私が離れていたことで、結果的に組織が強くなった。それがうれしいです」

文・写真 机美鈴  
◆次回は5月19日に掲載予定です。

記者から

お金ではなく、信頼で人と人がつながれる社会に。理想の実現に向き合う姿にワクワクする。